

だい ぶ かだい  
第5部 課題

この用紙は、ようし大会当日使用しますので、たいかいとうじつしやう必ずご持かなら参じください。

だい かい  
第15回  
まいにち にゆうりよく  
毎日パソコン入力コンクール  
がつ たいかい  
6月大会  
か だい  
【課題】  
だい ぶ わぶん ちゆうがくせい  
第5部 和文A 中学生  
ひく ほう なが みず  
低い方へ流れる水  
せいげんじかん ぶん  
制限時間5分

とうじつ ちゆういじこう  
【コンクール当日の注意事項】

1. この用紙を拡大・修飾などして、当日使用しても問題ありません。
2. 団体責任者の指示にしたがい、18桁の参加番号を半角数字で入力してください。
3. 課題の入力はすべて全角文字でおこなってください。スペースと改行も字数に数えます。ただし最終行はのぞきます。

※この課題は、毎日新聞社 月刊Newsがわかる 2014年10月号「低い方へ流れる水」より引用しました。(文字数1,700字程度)

かだいぶんしょう きんそくもじ  
〈課題文章の禁則文字について〉

毎日パソコン入力コンクールでは、引用した文章を原文のままソフトに取り込んでいるため、行頭、行末に禁則文字が来る場合があります。課題文章のPDFファイルどおりに入力すると正解になります。

しゅさい  
主催

まいにちしんぶんしゃ  
毎日新聞社

いっばんしゃだんほうじん にほん のうりよくけんていいいんかい  
一般社団法人 日本パソコン能力検定委員会

こうえん  
後援


そうむしょう  
総務省

もんぶかがくしょう  
文部科学省

こうせいろうどうしょう  
厚生労働省

けいざいさんぎやうしょう  
経済産業省ほか

ぎょう じづめ ぶんしょう にゅうりょく  
1行35字詰で、つぎの文章を入力してください。

※  の箇所で行 (Enter) してください。

人間にとって大切な水は都市の発展にも欠かせない。江戸では水路を造り、40キロ以上もはなれた川の水を送った。土地の高低差を利用した高度な技術だった。

日本に水道が登場したのは16世紀だ。今の神奈川県小田原市を治めた北条氏康が造った。水は川から引いていた。水道は上水とも呼んだ。徳川家康が参考にして、1590年に江戸で初めての水道を造る。後に神田上水に発展した。水は池から取った。江戸はうめ立て地が多く、井戸水は塩分が強い。人が暮らすためには、きれいな水が必要だった。参勤交代で大名や家族が江戸に住むようになる。町も栄え、人口も増えていく。水が不足するので、幕府は玉川上水を開くことを決める。西部の台地にある多摩川(当時は玉川)が水源で、都心までの距離は43キロあった。

水は高い所から低い所に流れる。都心との高さの違いは92メートルあり、ゆるやかな坂になるように水路をほった。難工事だったが1654年に完成した。工事を率いた庄右衛門、清右衛門の兄弟は、ほうびに玉川の名字をもらった。

玉川上水は、都心に入ると地下にうめた水道管につながれた。管は木や石で作り、継手という器具で結ばれた。ここでも高低差を生かし、町のあちこちに設けた上水井戸まで水を運んだ。上水井戸では水道管からの水をためる。さおの先におけをつけ、くみ上げた。

水をくむ順番を待つ間に会話もはずむ。井戸端会議という言葉の由来になった。修理などのために料金も取った。武士は収入、町民は家の入口の大きさを基準に決められた。

水道は江戸城に近い日本橋や神田などが中心だ。隅田川をはさんだ東部の深川などにはなかった。水の便の悪い地域では、余った上水をくみ、売り歩いた。水売りといった。明治時代以降も、新しい水道ができるまでは、各地で水売りが見られた。

水は絶えることなく、きれいな状態で町々に送る必要がある。幕府は見張り役の水番人を置き、ゴミを取り、水がよごれないように厳しく管理した。東京都水道歴史館の企画調査責任者、吉田雅之さんは「水路で魚をつることなども禁じました。周辺の草木をかってはいけない。まさに命の水、とても大切にしていました」と説明する。

飲むのに適した水を作る工場が浄水場だ。明治時代になり、ヨーロッパの技術で建設された。水道管を通じ、新鮮な水を町に送り出した。

日本で初めての浄水場は神奈川県横浜市に造られた。1887年のことだ。  
鎖国が終わると、外国との交易が盛んになった。当時はまだ村で、家が100軒足らずだった横浜も、急速に人口が増えた。江戸と同じうめ立て地で、井戸水は塩気がある。コレラもはやり、きれいな水が必要だった。そこで優れた技術を持っていたイギリスから専門家を招き、浄水場を建てたのだ。水は川から引いた。

東京ではしばらくは、江戸時代の水道を使っていた。ところが玉川上水に船を通すことを認めたため、水質が悪くなった。木の水道管もくさっていった。最初の浄水場建設は1898年だ。水は玉川上水の水路を利用して引いた。明治以降の水は、浄水して、ポンプで圧力をかけておし出し、鉄の水道管で送水する。鉄管を使うのは材質が強く、外からよごれが入らないようにするためだ。新しい水道は各地に造られた。消防用にも役立った。現在、浄水場は全国に約2,500カ所ある。細かくめぐらせた水道管で、水は家庭や学校などに届く。

浄水場では清潔な水を作るため、引いた水はまず砂や土をしずめる。さらに薬でよごれを固めたり、砂の層でこしたりする。最後は塩素で消毒だ。最近浄水場によって、オゾンという気体などを使い、カビのようなにおいを取り除くこともある。高度浄水処理と呼んでいる。

水道水のもと、山林に降る雨だ。森がたっぷり水をたくわえる。地中深くにしみこんだ水は、長い時間をかけ、川へ流れ出る。ちりなどのよごれも、その間にすっかり落ちる。川に出るまでには時間がかかる。含んだ水は大量だ。だから水が急にかれたりすることはない。このため森は緑のダムとも言われる。あれないう、しっかり守っていきいたい。

水がないと人間は生きていけない。浄水するには電気も必要だ。水は大切に使いたい。できることから始めよう。